

12月10日(日)、市未来創造セン

行雲流水

ター内の中央公民館で、宮古島地下水研究会(共同代表・前里和洋、新城竜一、友利直樹)の主催で講演会が開催された。講師は星信彦(医学博士、神戸大学大学院農学研究科教授)で、「子供たちの健康を守る」という演題で、国の農薬の安全基準の問題点を科学的知見や諸実験の結果を踏まえて検証することを中心に話が進められた

▼「農薬は人体にとってすべからず毒である」という大前提で水の安全性を考えるべきである。胎児期や乳児期にはその影響が大きく、特に脳への影響が心配される。また、環境化学物質の悪影響は世代を超えて伝わるなどが指摘された▼日本の残留農薬基準の値は諸外国に比べて極端に大きく、その是正が求められる。事実、国が定めている「無毒性量」はヒトにおいて発達神経毒性を有する可能性が指摘されている。OECD(経済協力開発機構)なども基準を作っているが、いずれも科学的根拠は脆弱(せいじやく)である。要は不確実な基準にとらわれず、毒物を最小限にする対策が必要である▼宮古島の発達障害児童生徒数はこの10年間で44倍に増加している。これは県平均の5倍、全国平均の20倍である。この原因としてネオニコチノイド系農薬による健康影響が疑われている。(宮古島地下水研究会)▼水に関わる不安は農薬問題の他にもある。多くの市民が飲料水を買っている。オーバーフローで地下水は枯渇しないのか▼今回の講演会を契機に、水を守る課題に市当局も市民も強い関心を持って積極的に対処していきたい。(完)

2023.12.12

2023.12.12